

NORTHERN
Horse Park
NEWS RELEASE



報道関係各位

2025 年 9 月 24 日

世界にひとつ、愛馬をカタチにする特別なクラフト体験

「羊毛フェルト×タテガミ・蹄鉄でつくる ホースクラフト」

開催のお知らせ

2025 年 11 月 22 日 (土) ～ 11 月 24 日 (月・休)

株式会社ノーザンホースパーク (所在地:北海道苫小牧市 代表者:代表取締役 吉田 勝己) が運営する、北海道の大自然のなか、馬とのふれあいを楽しめる自然公園「ノーザンホースパーク」は、「Brilliant Moments～輝く時間^{ひととき}」をパーパスにサービスを提供しています。このたび、馬のタテガミや蹄鉄を用いた特別なワークショップ「羊毛フェルト×タテガミ・蹄鉄でつくる ホースクラフト」を、2025 年 11 月 22 日 (土) から 11 月 24 日 (月・休) の 3 日間限定で開催します。



本イベントは、ブラストワンピースやレインボーラインといった中央競馬の G I レース優勝馬をはじめ、ウインドインハーヘア、ハヤヤッコ、フォゲッタブルなど、ノーザンホースパークに在厩する有名サラブレッドのタテガミや蹄鉄を使用して、オリジナルのマスコットやオーナメントをつくるクラフト体験です。

手のひらに収まる可愛らしいオリジナルマスコットを仕上げる「羊毛フェルトマスコットづくり」は、羊毛フェルト作家・かわだ ゆうこ氏を講師に迎え、馬のタテガミ※をしっぽに用いて、世界にひとつだけの“小さな愛馬”を自らの手でカタチにする特別な体験をお楽しみいただけます。また「ホースシューリースづくり」では、愛馬が実際に使用した蹄鉄をベースに、羊毛で作った馬やにんじんなどを自由に飾り付け、暮らしに輝くインテリアや記念品として残せる、オリジナルリースを制作します。ゲストの皆様にクラフト体験を通じて心に残る時間とともにノーザンホースパークでの思い出をお届けします。



ノーザンホースパークでは今後も「Brilliant Moments～輝く時間」をゲストの皆様にご提供すべく、豊かな自然環境を守り、人と馬がともに生きる持続可能な日本の社会と、馬事文化の発展に貢献すべく運営を行ってまいります。

※本イベントで使用するタテガミは、手入れ中に自然に抜け落ちたものです。

◆「羊毛フェルト×タテガミ・蹄鉄でつくる ホースクラフト」イベント概要

【開催日時】 2025 年 11 月 22 日（土）～11 月 24 日（月・休）

10：20～16：00（受付開始 10：00）

【会場】 K's ガーデン

【料金】 各 13,000 円（税込） ※体験料・入園料・お食事代を含む

【体験内容】

①羊毛フェルトマスコットづくり（タテガミを使用）

対象馬：ハヤヤッコ、フォゲッタブル、ブラストワンピース、レインボーライン

②ホースシューリースづくり（蹄鉄を使用）

対象馬：ウインドインハーヘア※、ゴールドンシックスティ、ブラストワンピース、ラストインパクト、ユーキャンスマイル

※ウインドインハーヘアは馬の蹄のサイズに合わせた未使用品

【特典】対象馬との記念撮影+にんじんプレゼント体験

【予約受付開始】2025 年 9 月 27 日（土）9：00～

【ご予約・お問い合わせ】～お電話でのご予約時に、ご希望の対象馬を申請～

ノーザンホースパーク 羊毛フェルトイベント担当

TEL 0144-58-2116

受付時間 9：00～17：00 ※11/6（木）～は 10：00～16：00

◆羊毛フェルト作家 かわだ ゆうこ氏プロフィール

2012 年より活動を開始。羊毛を一点ずつ手染めし、動物の毛並みや質感をリアルに表現する独自の作風で人気を集める。これまで愛犬の飼い主を対象に、愛犬の毛を用いた羊毛フェルト作品づくりのワークショップを各地で開催してきた。近年、馬を題材にしたクラフトを試みたところ大変好評を博し、この反響を受けて本格的に馬をテーマとした活動へも展開を広げている。大切な存在を“かたち”として残す活動は、多くのファンに支持されている。

◆ノーザンホースパーク事業概要

馬の魅力を伝え、日本の馬事文化の発展に貢献することを目的に 1989 年 7 月に開園しました。北海道の雄大な自然と馬の魅力を伝え「輝く^{ひととき}時間」を皆様にお届けすべくテーマパークを運営しています。総敷地面積 48 万平方メートルという広大な敷地に約 80 頭もの馬がゲストを出迎えています。競走馬生産育成牧場のリーディングファームであるノーザンファームを母体とし、北海道のサラブレッド生産の歴史や馬の生態を学べる資料館など「楽しむ」だけでなく「学べる」プログラムも展開。また開園以来、引退競走馬のセカンドキャリア支援や馬の排泄物を利用した堆肥の活用など、事業に基づいた持続可能な社会を目指した取り組みも行っています。